いオルメ

Eldonas Kou Mukai
1-1307, 1-6, Asahimaci, ABENO, Osaka
25, OKT, '84　No 283

イオルメ通信
大阪市あべの区旭町1-6, 1-1307　向井孝

▼ **住所が移転しました。**（名法などご訂正下さい）

新住所は 〒545 大阪市阿倍野区旭町1～6、1～1307、電話06-647-1140八九。

▼ **宅急便及び大口荷物の送付は**、右場所では受取りにくいので、左記（ウリ事務所）へお送り下さい。 〒545 大阪市阿倍野区旭町2-8-10・アパートアサヒ荘5号室（向井孝）宛。（電話なし・右647-1140八九で代用です）

▼ 八月九月は、ほとんど大山ぐらしで・原稿かき～（といっても・大山に連れていったネコたちを引取りにきたふう子さんがぜんそくでねこみ・一カ月ばかりそのまま滞在ということがあって・原稿かきは正味半月ばかり）・七〇枚ほど……。

▼ その原稿というのは・10年程まえに出した「山鹿養治・人と生涯（アナキズムとエスペラント）」の再版が急にきまって・その追補のためのもの。その他に「山鹿自筆の自伝マンガ」（カラー）や「写真」（約20葉）「アナキズム運動史年表兼山鹿年譜」を増補したので、大いに面目一新したと思う。早ければ11月下旬、おそくても12月6日、山鹿さんの命日迄には出る。（10月15日）

実名ふどのこと
墓前祭にすべて

例年9月15日前後、名古屋日蓮寺墓地で、大杉・野枝と共に虐殺された。橘宗一少年の墓前祭がある。その墓前祭のあとの小集会で十分あまり、ぼくがしゃべったことを思い出しながらかく。

この墓前祭、ことしで十回目ときいて、そうかもう十年か、よう続いたなァという感慨があります。もちろんそれは、何よりも昨年亡くなられた近藤真柳さんのおもいを承けた、名古屋の藤本さん鬼頭さん外たくさんの方々のご尽力に対して。ですが、この十年、このような集りができるような状況がともかくあったこと、そして当時50代だったぼくが60代半ばになろうとし、又ふとみまわすとまわりのみなさんも、ああ、そのようにとしをとられたなーということの、感慨としか云いようのないおもい、です。

昨年の墓前祭の印象を次のようにぼくは個人通信にかきました。「…参列者は圧倒的に老令（平均60代後半？）で20代30代は寥々たるものだった。つまり若いくたちにとって墓前祭や追悼会などかより、もっと前向きの…ということがあるだろう。このままではもう十年も経たぬうち消えていく心配がある。…形あるものはいつかなくなる。それでもよい。だが……」

今日の集りに知人の大牧さんが、高校生？のお嬢さんを連れて来ておられました。おそらくこの会場内で一番若いあそこに坐ってらっしゃるそのお嬢さんに、とくに話しかけるつもりで、「…だが」というところにあるぼくの胸のうちを、すこし しゃべりたい、と思います。

年に一ど、毎年、この墓前祭にやってきて改めて、この橘宗一の墓碑をみるたびに、一番はじめ冬ざれの草むらをかきわけて碑面をよんだ時の驚きというか、胸のとどろきが、いつもよみがえってきます。

昨年、ぼくと同道した若いA君が「里国ノ犬ドモニ殺サル」という箇所まで、よう読める。けど惠側の…「撫し子を、夜半の嵐に手折られて　あやめも分かぬ闇となりけり」というのは、どういう意味ですねん」と聞きました。で、「撫し子というのは、花のなでしこ。花にもまがういとしこの京一にも意味がかーって、その花が、夜半の嵐、甘粕ら軍部によって手折られたことをあらわしている。―あやめは花のあやめをかりて、京一の母で大杉の妹のあやめとさらに黒白の意味をかけている。分かぬは、判別がつかぬこと、つまり、世の中はまっくら闇で、黒白のけじめもつかぬ状況にある。それへの父親のいかりのおもいを托して、このうたがつくられてる…」

『むかしのくにはみんなこんなうたつくるガクがあったというのもオドロキやけど、やっぱし、あの戦前の天皇制政治の下で、これだけの思いきったことを墓碑にきざむなんてちょっと考えられんスゴイことや。それをたくさんの人に知らせるためにも、墓前祭は意味があるというわけやなァ』

というようなはなしを交しました。

▽ いまむかし △

A君は「戦前の天皇制政治の下で、これだけの思いきったことを、墓碑によくかいたなァ」というふうに、過去の歴史として受けとめたのですが、それはもう「過去」のことになっていて、今はありえないこと、と云いきれるでしょうか。たとえば、今、ぼくが何の抵抗もこだわりもなく、このような墓碑をつくることができるだろうか。自分の内と外とにあるいろんな抑圧や規制にとらわれて、とてもこのような墓碑をつくる勇気が出ないのではないか。

つまり、ぼくらをとりまいている状況は、いまも、六〇年前のむかしも、根底のところですこしも変ってへんーということを気付かせるものとして、この墓碑はある、とぼくは思うのです。そのようなぼくらの、いまの姿を、この墓

碑は、如実に脱し出している―と思うのです。

▽ そして明日 △

それは、この十年間つづけられてきた墓前祭についてもいえるでしょう。いまはこうして何事もなく開かれている墓前祭に、権力が干渉をはじめ、遂には許さなくなる時代が来たとき、この墓前祭がずっとありつづけているということは、きわめて重い意味をもつものとなるにちがいありません。

それは、橘宗一の墓碑が存在することの意味だけでなく、それが墓前祭によって開いの根源となり、力としてあらわされる、ということだと思います。

▽ 墓前祭が問うていることは △

いまから十数年前、70年のはじめごろ、幸徳秋水大逆事件で死刑になった宮下太吉、それから朴烈大逆事件で獄中縊死した金子ふみ子の墓が、宮下は有志によって甲府に、金子は親類の手で山梨県塩山に、はじめて建てられました。

そのころにまく〳〵そのような機運がちょっと出てきた、ということですが、それにしても死後50年60年の年月が経過したことによって、ようやくくくをとらえていた、そのことを大ぴらで語ることのおそれやはばかりが、薄らいだということでしょう。そのことからいえば、また同様のことが橘宗一の墓についても、ひっそりと草の中に埋もれたまま、発見されるまでにやはり50年の歳月がかからねばならなかった、とも云えます。

とすればーぼくらはいま宮下や金子や、大杉や野枝、宗一少年のことを、それらが50年60年たった遠い昔の出来事であり、いまの自分達の日常とは全く無縁なこととしていることにおいて、また権力が殆どもう気にもとめない歴史としてしまっていることにおいて、ようやく口にし、語り出している、と云ってよいかもしれません。

それ故もしいま、それらのことがぼくらの日常にかーわる事件として出てきているのだとしたら、それでもなお、いまと変りなくとりあげて自分の問題とすることができるかどうかー それとも、かつての人達と同じく、事実を事実として見ず、語ることをさけてひたすら黙殺し、それが歴史と化してしまう50年後のその時まで、何もしないままですごすのかどうかーをも又、この墓前祭がぼくらへ暗黙のうちに問うていることだと思います。

▽ 署名のお願い △

さきほど この集りが開会される前に、ぼくは一部の方に「東アジア反日武装戦線の、大道寺将司、片岡利明君の死刑に反対します」という署名をお願いしました。

その用紙は、次のような前文がかゝれています

私は次の全部または、いずれかの理由で大道寺将司、片岡利明両君に対する死刑の判決に反対するものです

一、彼らへの死刑判決は、戦後廃止されたはずの刑法9条（大逆罪―天皇（及びその家）に危害を加え、又は加えようとした者は死刑、と規定する―を再現するものです

二、多数の死傷者を出した三菱重工ビル爆破について、彼らは真剣に反省を重ねています。彼らを死刑にすることは、この時代のすぐれた良心のひとつを抹殺することです。

三、世界の趨勢は死刑制度の廃止に向かっています。日本でいま直ちに死刑制度の廃止が望めないとしても、個別の事件で死刑の判決と執行を避けることが切実な課題として求められています。

―かりに彼らのしたことに大きな間違いがあり、批判があるとしても、そのことが彼らの生命を権力の思うままに抹殺させることでなく、彼らが生きてあることによってこそその批判なのだと思います。そして、それ以上にぼくらが彼らについて、やはり50年のちでなければ語らず口をつむいで、その死を黙認するということは、どのようなことがあってもしてはならぬことだと思います。

▽ 署名を！ △

最後に、宮下・金子の墓は、私たちの非力によって、建てられたままそのごは、そのまゝ年一回の墓前祭も開かれないままとなっていますが、それゆえになお、この十年間つづいた橘宗一墓碑保存会の墓前祭を、これからもつづけていくということが、きわめていま現在のぼくらの問題としてあるーということを、とくにこの会に参加して下さった若い方に訴えたいと思います。あわせていささか脱線のようにもみえる、東アジア反日武装戦線大道寺・片岡両君の死刑反対署名をあえておねがいしたのはーこの墓前祭がまた、開いの根拠となり、力としてあらわされる」とは、50年後ではない、いまのいまの私たちの、生き方あり方として出てくる問題とのかかわりを、決して避けないことーなのであり、くりかえして云えば、そのことこそが、墓前祭をつづけていくことの根底にある意味の具体化だと思うからです。

10月20日

余白に

▼署名用紙を同封させて頂きました。既にして頂いた方への重複送付は何とぞおゆるし下さい。どうかお力添えをお願いします。

▼11月4日PM1～9渋谷区民会館（原宿駅代々木より改札を出て明治通り方向々分）8月～1984自由民権百年爆裂弾伝説（爆発物取締罰則を考える）集会に参加のため上京の予定。ひまをつくってぜひおいで下さい。

▼7・8年前「直接行動」4号の予約をとって、四万円ほど前金を頂いたままになっている。12月刊行の「出版禁止」を寄贈することで、遅延のおわびとしたい。お手数ですが予約の方（そういう気がする方）どうかハガキでその旨お申出下さい。（向井）